

六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 36 白糠5年、北海道11年

この4月で神奈川県から白糠町に移り住んで丸5年。仕事で通っていた期間も含めると、気づけば11年、北海道の自然や生き物を撮影してきました。

それまで北海道には、高校の修学旅行で来たことがあっただけで、それも今となっては、どこに行ったのかもよく覚えていません。（山の中をバスで走って、動物をたくさん見たのが楽しかったことだけは覚えて



小さなトガリネズミにとって草原はジャングル



トガリネズミのものらしき足跡

います)

これまで数えきれないほど多くの学びや喜びをもたらしてくれた北海道の自然や生き物たち。トガリネズミをはじめ、それらにもし出会っていなければ、私は今、どこで何をしているのだろう。たまにふと考えたりしますが、いまいち想像が膨らみません。

足元の解像度

雪の上に残された、指先よりも小さな足跡。おそらくトガリネズミの足跡です。ネズミの足跡と違うのは大きさだけでなく、尻尾の跡がないこと。ネズミは尻尾を引きずって走りますが、トガリネズミは尻尾を立てて走ることが多いので、跡が残ります。

せん。さらに、トガリネズミは体重がとて軽いので、雪が絶妙な硬さでなければ足跡は残りません。つまり、この足跡を見つけたことができたのは、かなりラッキーなことなのです。神奈川県から白糠に通うだけでは、こんな機会はなかなかないでしょう。

ズミはきつといたはず。けれど、そもそもトガリネズミなんて知らなかったし、例えこの足跡を見ても、ネズミかな？と思うだけだったでしょう。トガリネズミに限らず、ここで暮らしているからこそ出会える世界の広さや深さがあることを日々感じていきます。現代風になえば、解像度が上がったと言おうのでしょうか。北海道の自然に、トガリネズミに出会っていただければ今どうなっていたのか・・・やっぱりうまく想像できません。

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。

<https://rokutaharuhiro.com>

